

2008—2009 年度 根研究会会長選挙 の立候補届

2008—2009 年度 (2008 年 1 月 1 日—2009 年 12 月 31 日) の期の根研究会会長の立候補は、下記の 1 件だけでしたので、唐原一郎会員の当選が決まりました。

氏名：唐原一郎

所属：富山大学大学院理工学研究部生物学専攻

生年：1966 年生

研究内容：環境要因と根の形態形成。特にカスパリー線など二次壁の発達に注目しています。最近では電子線トモグラフィーや重力生物学にも関わっています。

根研究会の運営に対する抱負：

国内の研究者をめぐる現状を見ますと、構造改革のあおりで、様々な場所で人件費抑制すなわち減点を目的とする成果主義が広がっていますし、けして大多数の研究者の *incentive* を高める方向に向いているとは思えないですし、他方で雑用ばかり増えて研究の *motivation* がそがれているのではないのでしょうか。これを書いている現在がたまたま参院選の前のためか、話題が大きくなりました。

さて根研究会をめぐる状況はといいますと、財政の問題があるにはありますが、暗くなるような話題は余らないように思います。これまでの先輩方のご尽力のおかげで、国内では分野を越えた交流が進んで来ましたし、この交流を国境を越えて世界に広げてみようじゃないか、ということで、今年がついに国際誌 *Plant Root* の創刊が実現しました。このような試みが実現するところに、会の力そして日本のソフトパワーを感じます。当面の課題は、*Plant Root* 編集部で頑張っている皆さんと一緒にこの雑誌を軌道に乗せることがではないかと考えています。不安が全くないといえば嘘になりますが、この雑誌の創刊が研究会にどのような効果をもたらすかを想像すると、わくわくするものがあります。また若手の皆さんのエネルギーも感じます。「根の研究」では犬飼編集長が、*Plant Root* 編集部では村中さんや荒木さん、などの皆さんが奮闘して下さっています。樹木根の分野の方々の会への参加も広がっているように思います。ハイパワーな研究グループから若手・女性・個人経営(?) の研究者まで、誰もが夢を見られるようなことを、皆さんのご意見を聞きながら考えていきたいと思えます。